



令和8年度入学式 おめでとう

令和8年度の入学式が4月2日、本学体育館で行われ、国際学部、経営情報学部合わせて284人（国際文化学科113人、経営学科97人、情報システム学科74人）の新生が新たな大学生活のスタートを切りました。

式典では、名前を読み上げられた新生が一人ずつ起立し、越智敏夫学長が式辞を述べました。越智学長は「大学でいちばん大事なことは、自分でものを考えることです」と語り掛け、17世紀フランスの哲学者、パスカル^パの有名な言葉「人間は考える葦である」を引きながら、「パスカルの考え方がこそが、大学での勉強に求められている。絶対的に見えるものさえないながら何かを生み出していく。これが大学での勉強のあり方です」と、学問

喜びあふれる284人

胸が高なる新たな出会い

に対する基本姿勢を説いて新生を激励しました。

続いて中国・華東師範大学など派遣留学で提携する海外5大学からのビデオメッセージが放映され、最後に新生を代表して情報システム学科の瀬倉結軌さんが「これから多くの人と出会い、時に衝突し、たくさん経験を積んでいくことでしょうか。常に向上心を持ち、謙虚さを忘れず、日々成長することを誓います」と抱負を述べました。

寒の戻りを思わせる肌寒い日。緊張した表情の新生たちは、真新しいスーツ姿で友人と記念撮影をしたり、参列した家族と談笑したりして、晴れやかな表情を取り戻し、新たなキャンパスライフをスタートさせました。

CONTENTS

1~4面

令和8年度入学式特集
学長式辞
新生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎のこぼれ

4・5面

学内合同企業説明会
『大学30年史』刊行
全日本パワーリフティング選手権大会
渋谷駿介さんが初優勝の快挙
新任教員紹介
新興国異文化理解セミナー

6・7面

国際交流センター
リニューアル
派遣留学・
夏期セミナー報告
4カ国へ30人派遣
教員の活動

8面

退職教員あいさつ

9~12面

令和7年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞
卒業にあたって・特別表彰

学長式辞

新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

わってそれを身につけるとい

とではなくて、大学での勉強は自分の考えを持つことが前提になります。この自分の考えを持つということは価値判断を行うということと、それは世の中のものごとについて良い悪いを判断することでもあります。しかしこの世界は不完全にできていて、問題だらけです。また、さらに不幸なことにそ

を続けている17世紀前半にパスカルは生まれますが、幼い時期から父親によってエリート教育を受けます。その父親と同時代の知識人にデカルトがいました。パスカルは父を通じてデカルトと交流をもちます。

パスカルは16歳で数学のある有名な定理を発見します。このときデカルトは「ガキにしては上出来だよ」と、誉めているのか、批判しているのかわからないことを言います。どちらにしても大人げない対応ですよ。こんなデカルトですが、彼はもちろん近代科学の代表みたいな人で、一般には理性の人、合理性の権化みたいに言われます。デカルトにとつ

に対して人間ができるのはそれを信じるだけだと言います。また自然界にしてもそれは合理的に成立しているのではなくて、それを説明するときに人間の側が合理的な見方をしたほうがより良い理解ができるだけだと言います。

「人間は考える葦である」というのがパスカルの有名なことばですが、この葦というのは雑草とかそんな意味であって、人間は本当に貧相な存在だけれど自分でものを考える点にその強さがあるという宣言でもあります。この不完全な世界において取るに足らない存在である人間はどこまでものを考えることができるか。デカルト的な近代合理主義を疑うところからパスカルの

ご購入おめでとうございます。

これから皆さんはこの大学で4年間、勉強するわけですが、そもそも大学って何だろうと不安に思っているかもしれません。そこで今日は大学での勉強の仕方というか、大学についてここは知っておいたほうがいいよ、というようなことをお話ししておきたいと思えます。

まず大学でいちばん大事なことは、自分でものを考えるということです。これは当然といえば当然のことなのですが、でもけっこう難しいことでもあります。そしておそらくここが高校までの勉強との大きな違いでもあります。何かを教

「絶対的に見えるものささえ疑う」 パスカルの考え方身につけよ

ころからパスカルの問いは始まります。だからこそ、パスカルにとって「哲学をばかにすることが真に哲学すること」になります。

うした悪いことを世間の多数派が支持していることもよく見られる光景です。なので自分でものを考えるということは社会に嫌われる、いわゆる反社会的な意味を持つてしまうことさえあります。

大学のこういう点に関して私がよく思いう出すのはパスカルです。ヨーロッパでカトリックとプロテスタントが殺し合い

ては神の存在も、自然界の成り立ちもすべて合理的に証明できるものでした。その意味では現在、世界中に存在する大学すべての基礎のような人でもあります。

ところがそういう一世代上の大知識人であるデカルトをパスカルは容赦なく批判します。神の存在を証明できるなどというのは愚者の思い上がりであって、神

こんな面倒なことを言いながらもパスカルは社会を現実的により良いものにするようにするので、いろんなものを発明していきます。有名なところでは現在の油圧ブレーキや油圧ジャッキのものになる原理を発見したのもパスカルですし、パスカリーヌというケーキみたいな名前の機械計算機の元祖みたいなものも彼は作

ります。また乗り合い馬車の組織を人類で初めてつくったのもパスカルです。これは今、世界中で走っているバス路線の起源ですね。

こうしてパスカルはデカルト流の「世の中には合理的真理があるのだ」という言説さえ疑い、そのうえでいろいろと社会改良のためにものを考えました。デカルトには悪いですけど、こういうパスカルの考え方こそ、大学での勉強に本来求められていることだと思います。絶対

私の抱負



新入生代表
情報システム学科 瀬倉 結軌

暖かな春の訪れとともに、私たちは新潟国際情報大学の入学の日を迎えることができました。

本日は私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙げていただき

的に見えるものさえ疑いながら何かを生み出していく。これが大学での勉強のあり方です。

今日から4年間、皆さんが自分でものを考えて勉強していくなかでいろいろな難問が出てくるでしょう。本学の教員はみな優秀な研究者ですし、嘘を教えたりは絶対にしません。しかしそういう優秀な研究者に教わるからこそ、ゼミや講義でそれらの難問に対峙したとき、皆さんは教員の意見に対しても「先生、それは違

き、誠にありがとうございます。また数々の激励のお言葉や両親をはじめ、私たちを支えてくださった多くの方々に心よりお礼申し上げます。

現在、世界では戦争や貧困などさまざま

向上心と謙虚さ忘れず学ぶ日々

まな問題が起こっています。これは世界に限った話ではなく、大小違いはありますが、地域問題にも繋がる部分があると私は考えています。異国の文化を理解するためには自国の文化や現状を深く知る必要があると思います。私たちはこれらを通じていく日々の中で多くの人と出

うと思います」と自信をもって言うようになってください。それがパスカル的なものの考え方を身につけるということであり、大学で勉強するということです。期待しています。



会い、時に衝突し、たくさん経験を積んでいくことでしょう。

学問においてはさることながら、新たな環境で出会ったことのない人と過ごす日々は、私たちが人間的な面でも成長さ

せてくれるはずで

この4年間を有意義なものとするために、常に向上心を持ち、謙虚さを忘れず、経験豊富な先生方から多くのことを学びながら日々成長することをお誓いし、新入生代表の抱負とさせて頂きます。



歓迎のことば



在学生代表 学友会長
経営学科 高橋 准大

しようか。私自身も入学当初は同じ気持ちを抱えていました。しかし、大学生活は皆さんが思っている以上に自由で、そして自分次第でいくらかでも可能性を広げられる場所です。焦る必要はありません。一歩ずつ、自分のペースで進んでいけば大丈夫です。

また、この4年間で自分なりの目標を見つけてほしいと思います。私が最近知った言葉に、「3日坊主でも、1年に100個以上のことに挑戦できる」というものがあります。最初から完璧を目指す必要はありません。短い期間でも必要はありません。短い期間でも向かって努力する経験は、きっと

目標見つけ焦らずマイペースで

新入生の皆さん、このたびは入学、誠におめでとうございませす。そしてここまで支えてくれたご家族、ご親族の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。在学生を代表し、皆さんに歓迎の意を表したいと思ひます。

新しい環境に足を踏み入れた今、期待とともに、不安や緊張を感じている方も多いのではないでいいます。

いいので、少しでも興味を持ったことに挑戦してみてください。その積み重ねが、気づけば大きな経験となり、自分自身の成長へとつながっていくはずですよ。

また、この4年間で自分なりの目標を見つけてほしいと思ひます。それは大きなものでなくても構いません。達成したいことや、なりたい自分を思い描き、それに向かって努力する経験は、きっと将来の大きな財産になります。

これから始める大学生活が、皆さんにとって実り多く、かけがえのないものとなることを心より願っています。ともに充実した日々を過ごしていきましよう。



祝電

順不同

- | | | |
|----------------|---------|---------|
| 日本私立大学協会 | 会長 | 小原 芳明 様 |
| 新潟県 | 県知事 | 花角 英世 様 |
| 新潟商工会議所 | 会頭 | 廣田 幹人 様 |
| セコム上信越(株) | 代表取締役会長 | 野沢 慎吾 様 |
| (株)ホンダモビリティ北関東 | 代表取締役社長 | 高倉 成之 様 |

学内合同企業説明会

2027年3月の卒業予定者を対象にした学内合同企業説明会が2月20日、25日、27日の3日間にわたり、本学学生食堂を会場に開催されました。説明会には延べ119の企業・団体が参加し、学生にとって大変貴重な機会となりました。

119企業・団体が参加 広がる就活の機会

説明会では、各企業から事業内容や募集予定、求める人物像などについて詳しい説明が行われ、参加した学生たちは人事担当者の話に熱心に耳を傾け、就職活動への意欲を一層高める様子が見られました。

また、参加企業の中には、採用担当として本学卒業生が参加し、実際の働き方や職場の雰囲気を紹介する場面もあり、学生たちは先輩のリアルな声に親近感を持ちながら聞き入っていました。普段は



『大学30年史』刊行

本学では開学30周年にあたり、この度記念史を刊行

総務課宛にお申し込みいただき、ただければご送付いたします(送料共に無料)。

なお、記念史の全文は本学公式サイト上の『30年史』ページから閲覧できますので、ぜひご覧ください。



お申し込み・お問い合わせ先

総務課メールアドレス
somu@nuis.ac.jp



全日本パワーリフティング選手権大会

全日本パワーリフティング選手権（ジュニアクラシック部門）に出場した本学フィットネス研究部の渋谷駿介さん（当時・経営学科4年）が、初出場で見事初優勝の快挙を成し遂げ、世界大会への出場権を獲得しました。

渋谷駿介さんが初優勝の快挙

小嶋志歩さん・熊倉実子さんも2位に

2月13日から15日まで宮崎県延岡市で開催された全日本パワーリフティング選手権には、渋谷さんのほか同研究部の小嶋志歩さん（経営学科4年）、熊倉実子さん（経営学科3年）の2人も参加し、藤瀬武彦部長兼監督が

合計重量457・5キロを記録し、同記録の2位選手を体重差で上回り優勝しました。渋谷さんは今年8月に南アフリカで開催される世界ジュニア選手権への出場権も獲得しました。また、女子57キロ級に出場した小嶋さんは合計重量280キロ、同69キロ級の熊倉さん287・5キロ

セコンドを務めました。男子53キロ級に出場した渋谷さんはスクワット157・5キロ、ベンチプレス112・5キロ、デッドリフト187・5キロの自己新記録で

で、ともに2位入賞を果たしました。部創設以来の快挙を成し遂げた渋谷さんは、約1年間で130キロもの記録向上と減量に取り組み、昨年11月の県大会で標準記録を突破して全日本への切符を獲得、学生最後の大会で大きな成果を挙げました。その努力に心から敬意を表するとともに、今後のさらなる活躍が期待されます。



表彰式

新任教員紹介



権 五景

ぐおん おーぎょん
国際文化学科
教授

担当科目

日本経済論、日本経済史、国際経済史

研究分野

【豊かな国(地域)・貧しい国(地域)、なぜ? 一地域資源の観点とグローバリゼーションの観点から】



蔡 珂

さいか
国際文化学科
准教授

担当科目

中国語、現代中国論、中国史概説

研究分野

日中比較史、近代教育史



宮本 友紀

みやもと ゆき
情報システム学科
教授

担当科目

英語

研究分野

外国語教育

新興国異文化理解セミナー

パラグアイ

国際理解教育の一環として「新興国異文化理解セミナー」が昨年11、12月に本学国際交流センターで2回開催され、約50名の学生が参加しました。

【第1回パラグアイ】獣医師としてパラグアイに赴任した元農

日本人移住の歴史学が

契機にも

水省・感染症対策専門官の西野重雄氏が講師に迎えました。西野氏は、大豆や牛肉産業を基盤とする経済構造や、1万人を超える日本人移住の歴史、生活文化など多角的な視点から同国の現状を語りました。

参加した吉澤優枝さん（当時・経営学



【第2回インドネシア】11年間インドネシア) 育格差の現状などを紹介しました。

多様性尊重する社会

参加した高野鈴

インドネシアに滞在した英語講師・通訳業の坂本麻紀氏は、多民族国家としての理念や島嶼部における文化的多様性、日系企業の活動、教育

夏さん（経営学科4年）は、「宗教と生活文化の関係について理解が深まり、多様性を尊重する姿勢の重要性を実感しました」と感想を述べていました。

インドネシア



この度、本学の国際交流センターをリニューアルし、CEEP (Communicative English Program) の専用教室と、国際交流およびファシリテーション活動のためのスペースを同一のフロア内に設置しました。これによって、国際理解に必要なさまざまな素養・スキルを身につけるための環境がより一層整います。新しいCEEP教室では、語学学習のための最新の設備を整備し、効果的な学習ができるように設計されています。国際交流スペースは、従来通り派遣留

CEEP専用教室を設置

語学学習の最新設備を導入

学の前研修や報告会、交換留学生との交流のほか、国際交流ファシリテーターの活動やそれに関連した授業のために利用されます。これまで通り国際交流スペースは授業等で使用されている時間以外も一般学生も自由に利用できます。海外提携校や諸外国に関する資料も充実しており、世界への興味・関心を喚起する交流の場としても機能します。語学力の向上はもちろん、異文化や多様な価値観を理解し、国際的な視野を持つ人材を育成することが本施設の目的です。



4カ国へ30人派遣

中国

私は昨年9月から今年の1月まで中国・上海のある華東師範大学で4カ月間、中国語を学びました。華東師範大学は上海市に位置する有名な大学です。キャンパス内は環境が美しく、規模もとても大きいです。大

多様な仲間と学ぶ喜び

国際文化学科3年 田守杏珠

学内には食堂やスナック、カフェなどがあり、学生の学校生活が非常に便利です。私は国際漢語文化学院で中国語を学びました。ここには世界各国から留学生が集まっ

て、中国語を練習する機会をたくさん得ることができました。授業では、総合、会話、リスニングのクラスを受講しました。授業ではよく

令和7年度の派遣留学・夏期セミナーに参加した学生は2月末までに全員帰国し、4月8日に報告会が行われました。7年度の派遣先は、アメリカコースが「トランプ関税」の影響でビザ発給が遅れて渡米できず中止となったため、ラトビア・ダウガピルス大学(5名)、中国・華東師範大学(4名)、韓国・慶熙大学校(14名)、夏期セミナーのカナダ・アルバータ大学(7名)の合計30名となりました。ロシア語コースは戦乱の影響で昨年同様ロシア語圏のラトビアに派遣されました。

学習以外では、外灘、豫園、南京路といった上海の有名な観光スポットにも行きました。これらの場所を訪れることで、上海の歴史や文化についてより深く理解することができました。今回の留学を通じて、中国語能力が向上しただけでなく、中国の生活や文化を直



言語実践活動での集合写真

接体験することができました。私にとって、忘れられない貴重な経験となりました。今回の留学に際し、多大なるご支援とご協力をいただいた先生方に改めて深く感謝申し上げます。

山田 裕史(国際文化学科・教授)

・(2025年12月7日) パネリスト「特殊詐欺利権の保護と世襲支配の強化：国境紛争の政治利用」(パネル4：カンボジア・タイ領土紛争の政治) 東南アジア学会第107回研究大会 (亜細亜大学・武蔵野キャンパス)

3) 委員・社会的活動・記事・その他

謝 凱雯(経営学科・教授)

・(2026年4月1日より新規～2028年3月31日) 新潟県建築審査会 (新潟県土木部都市局)

山田 裕史(国際文化学科・教授)

・(2025年12月10日) 『中日新聞』朝刊・『東京新聞』朝刊「『トランプ仲介』も効果薄…取東が見えないタイとカンボジアの衝突 背景に『弱腰になれぬ双方のジレンマ』」にコメント掲載

道仙台城跡線のシミュレーション分析～」日本シミュレーション学会 多次元移動通信網研究会 (防衛大学校)

佐々木 宏之(経営学科・教授)

・(2025年8月30日・31日) 「励ましの言葉がけにおける個人差要因—制御焦点傾向とBig Five性格特性に着目して—」東北心理学会 (医療創生大学)
・(2025年10月11日～13日) 「制御適合メッセージは幼児のパフォーマンスを高めるか?—制御焦点傾向からの再検証—」日本教育心理学会 (アクトシティ浜松)
・(2025年11月28日～30日) 「図形および物体の視覚探索における典型色による促進」日本基礎心理学会 (新潟市・朱鷺メッセ)

謝 凱雯(経営学科・教授)

・(2026年2月24日) 「Does Entrepreneurship Education Promote Entrepreneurial Behavior? An Empirical Study」現代企業制度研究部会 (中央大学・多摩キャンパスグローバル館)



学長(右端)より修了証を授与され笑顔(前列右が大久保さん)

ラトビア
月間留学しました。日本とは全く異なる教育環境の中で、多様な

異なる価値観に触れる

国際文化学科3年 大久保 勇輝

私はラトビアにあるダウガピルス大学へ4カ月の仲間と共に授業を受けたり交流をしたり、とてもいい経験になりました。留学の主目的でもある自分の考えを改める機会になりました。毎日が日本では味わえない刺激だらけの日々で、あつという間の4カ月間でした。改めて今回事話になったダウガピルス大学の先生方、その他携わっていただいた本学の方、本当にお世話になりましたこと感謝いたします。そして、両親や家族と一緒に留学に行った4人の仲間に心よりお礼申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

ラトビア

私はラトビアにあるダウガピルス大学へ4カ

の仲間と共に授業を受けたり交流をしたり、とてもいい経験になりました。



景福宮にて(右端が首藤さん)

韓国

私は昨年9月23日から今年2月28日までの約5カ月間、ソウルにある慶熙大学校で韓国語を学びました。授業は1学期10週間、1日4時間行われ、週1回のゼミや文化授業も受講しました。ゼミではチームで情報収集を行い、韓国語で発表をしました。文化授業ではK-POPで学ぶ韓国語

K-POPで学ぶ韓国語

国際文化学科3年 首藤 日向

POPの歌詞から韓国語を学ぶ授業や、韓国語の授業を受講しました。生活面ではフエギ駅の近くにある昌徳安という寮で2人1部屋の共同生活を送りました。週末や連休には観光地を訪れたり、博物館に行ったりするなど、学びとともに韓国文化にも触れることができました。韓国語の実力を伸ばすだけでなく、一人の人間として大きく成長することができたと思います。

カナダ

夏期セミナーで、カナダのアルバータ大学に約1カ

雄大な自然の中で一カ月

経営学科4年 猪又 莉子

夏期セミナーで、カナダのアルバータ大学に約1カ月の仲間と共に授業を受けたり交流をしたり、とてもいい経験になりました。留学の主目的でもある自分の考えを改める機会になりました。毎日が日本では味わえない刺激だらけの日々で、あつという間の4カ月間でした。改めて今回事話になったダウガピルス大学の先生方、その他携わっていただいた本学の方、本当にお世話になりましたこと感謝いたします。そして、両親や家族と一緒に留学に行った4人の仲間に心よりお礼申し上げます。この度は誠にありがとうございました。



授業最終日に、サプライズで誕生日をお祝いしてもらいました。(2列中央が猪又さん)

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

- 佐々木 桐子(経営学科准教授)
 - ・(2026年3月) 「社会システムのネットワーク途絶に関する離散系シミュレーションの適用研究」『博士学位論文』東北大学大学院工学研究科
- 謝 凱雯(経営学科教授)
 - ・(2026年3月) 「愚直なモノづくり精神と社会関係資本の再構築—燕三条地域における世代交代を通じて—」『危機管理研究』危機管理学会 第34巻 (1~10頁)
- 山田 裕史(国際文化学科教授)
 - ・(2025年12月) "Cambodia: Sihanouk's Monopolization of Political Power and the Establishment of Monarchy." Yuko Kasuya ed. *Decolonization and Regime Change in Asia: Historical Origins of Democracy and Dictatorship*. Singapore: Springer. (333-353)
 - ・(2026年3月) 「1970-1979年のカンボジア：冷戦下の体制変動と社会崩壊」アジア経済研究所編

2) 学会・研究会・講演等

- 内田 亨(経営学科教授)
 - ・(2025年11月30日) Caroline Benton, Remy Magnier-Watanabe, Toru Uchida "Antecedents of Emotional Contagion under Telework in Japan" 国際戦略経営研究学会 (明治大学)
- 小林 満男 他(情報システム学科教授)
 - ・(2025年11月29日) 「情報システム学会20周年記念(鼎談)：浦昭二先生の教えを礎に、継承と改革の未来へ」情報システム学会 (青山学院大学)
- 佐々木 桐子(経営学科准教授)
 - ・(2026年3月6日) 「災害復旧工事に伴う長期通行止めが道路交通ネットワークへ及ぼす影響～市

退職教員あいさつ



32年の貴重な教師生涯

国際文化学科教授 區 建英

赤塚の校舎が建てられ始めた頃、大学の周りは一面の田んぼでしたが、今は美しい自然風景に囲まれながら民家が並んでいる綺麗な町になりました。大学の知的環境に恵まれ、私は教学

本学の第一期教員として32年間も勤めました。この間に時間が過ぎてしまったよ

の面でも多くの経験を蓄積しました。とくにゼミの研究で学生たちが一生懸命外国語文献を読解し、高度の思想典籍も読破するような研鑽の姿が深い印象に残っています。学術研究の面でも私自身の目指した目標もかなり達成し、代表的な著書や論文によって発表できました。32年間本場にありがとうございました。本学の益々のご発展を心よりお祈りいたします。



自覚と研鑽の励みに

情報システム学科教授 石井 忠夫

を迎えます。在職中は教職員の皆様には、同じ職場の同僚として忌憚なくお付き合いをさせて頂き、充実した教員生活を送ることができました。心より感謝申し上げます。また、私の講義を受講してくれた在

2001年4月に着任して早いもので25年がたちましたが、2026年3月で定年退職

学生ならびに実社会でご活躍の卒業生の皆様、さらには卒業研究で共に価値を共有した石井ゼミ生の皆様に感謝申し上げます。学生の皆様との日々の交流は、教員としての自覚と研鑽を促す励みとなりました。今後は教職からは離れ、研究活動や学会活動に注力する予定です。皆様のご活躍とご健勝、ならびに本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。



経営学科一期生送り出す

情報システム学科教授 小林 満男

学園生活も15年がたちました。学部教員たちと

どこまでも続く水田。秋には黄金色の稲穂が揺れるみずき野キャンパス。毎日、角田山を見ながらの

業生にはそれぞれの職場でおおいに羽ばたいて欲しいと期待しております。また「日本一長い新潟砂丘をPRしよう」と始めた新潟砂丘プロジェクトでは、地元の人たちと「新潟砂丘フットパ

学部の改組の検討を重ね、2018年には経営学科がスタート。2022年3月、経営情報学部長として経営学科の第一期生を送り出すことができました。卒業

に登録、保全する活動等を実施してきました。今後も地元から頼りにされる大学として益々発展していくことを願っています。



教育・研究に励んだ14年

経営学科教授 藤田 晴啓

をいただき、みなさまには大変お世話になりました。

2012年に着任以来14年間、経営情報学部長を2022年度から25年度まで務めさせ

学生被験者実験。4月からは本学現代社会研究所の専任研究員として2つの科学研究費プロジェクトを継続するとともに、マレーシア国ペトロナス工科大学専任教授として就任します。若手教員の競争資金獲得等指導や大学院授業を担当します。生成AIによる視覚刺激に対する脳波を含めた身体反応のシミュレーション、ニューロテクノロジーを駆使した研究を実施します。



住んでみれば楽しい場所

情報システム学科教授 梅原 英一

です。新潟は住んでみれば、楽しい場所でした。

2021年4月に着任してからこの5年間、時間があつというまに通った感じが

方としても大変助かりました。ありがとうございます。私としてもITや情報システムが主担当ということで、前任校とほぼ同じだったので、その点ではあまりご迷惑をかけることなく過ごせたと思います。今後の皆様のご活躍に期待しております。



大切な時間 心にしまつて

経営学科准教授 佐々木 桐子

生たちと出会い、私の研究室から200名を

新潟国際情報大学に着任したのが2001年4月。今日までの25年間、たくさんの学

研究室の本棚や机の引き出しには、もう思い出をしまうことはできません。皆さんと共に過ごした大切な時間をそっと心の中にしまい、忘れ物がないかを確かめて、静かに出発いたします。

超える卒業生を社会へ送り出してきました。そして、図書館横の松の木から巣立った9羽のトラフズクたちの成長も、見届けることができました。

会いたい気持ちと元気があれば、きっとまたいつかお会いできます。どうか皆さまもお元気で。そして、幸せな時間を本当にありがとうございました。

卒業生 答辞



卒業生代表 経営学科
長野 健二郎

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の光が温かく差し込む季節となりました。本日は、教職員をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、私たちのためにこのような盛大な卒業式を挙げていただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

4年前の4月、私は1人だけ社会人という立場で、皆さんと共に入学式の列に並びました。知り合いは1人もいない、自分だけみんなと違う、怖さすら覚える、人生で最も緊張した1日でした。1年生の前期は1人で授業を受け、1人で昼食をとり、1人で夏休みを過ごす。そんな学生生活のスタートでした。その時はゴルフ部での活動が大きな楽しみでした。

全力で駆け抜けた4年間

後期に入る
と学務課から

「活動を休止していた中国文化サークルを再開させたいメンバーがいる」という連絡をいただき、そのメンバーと共にサークルを再開させました。その流れで、自身でビジネスサークルという新しいサークルを立ち上げ、そこから少しずつ交流の輪が広がりました。2年生になるとさらに野球部にも入り、1からトレーニングを重ね、投げ方を勉強し直し、4年生の最後の大会では北陸大会の決勝まで勝ち進むことができました。

この学びの機会を持ち、多くの仲間を得る行動を起こし続けました。仕事と勉学を両立しながら多くの活動にも参加し、本当に全力で駆け抜けた4年間でした。

私は若い頃、高校を退学し、大学も退学し、いわゆる普通の学生生活を過ごすことができませんでした。私の大学生活は決して心地の良いスタートではありませんでした。それでも時間をかけて環境に馴染み、行動を起こし、仲間を見つけ、最終的にこのような舞台上に立つ機会をいただけるまでに辿り着くことができました。

もし、これから新しい環境で苦しい思いをすることがあっても、決して結論を急がなくてください。環境に馴染むには時間がかかることを思い出し、そして友達や大人を頼ってください。大学の先生も、アルバイト先の店長や先輩も、そして一番身近にいるご両親も、きっと皆さんの力になってくれるはずです。

まるで学生代表らしくない答辞になってしまいました。私が社会人学生として4年間ここまで歩んでこられたのも、社会人である私を受け入れて下さった新潟国際情報大学、温かいご指導とサポートをしてくださった教職員の皆様、そしてこんな私に近寄り、仲間になってくれた多くの学生の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

これから私たちは、それぞれの道を歩みますが、この大学で得た知識と経験、そして共に4年間を過ごした仲間との繋がりを大切に、社会に貢献できるように前向きに挑戦し続けます。

最後になりましたが、新潟国際情報大学の一層のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、卒業生を代表してお礼とお別れのご挨拶とさせていただきます。

卒業にあたって

私の大学生活は挑戦し続けた4年間でした。北海道から新潟に来た当初は友人もおらず、不安な気持ちでのスタートでしたが、さまざまなことに挑戦し、視野を広げることができました。

“ウルサポ”で視野広がる

特に印象に残っているのは、留学とウルサン交流、国際文化学科 鍋田 茉綾 様、両親、流サポーターの活動です。韓国留学では積極的に行動することや異文化理解の大切さを学び、帰国後は力を確かめるため、語学の検定試験にも定期的に挑戦しました。ウルサン市(韓国)と新潟市の

交流事業では、他大学の学生と意見交換しながら私自身も新潟の魅力を確認することができました。これらの経験ができたのは、支えてくださった先生方や職員の方のおかげです。4年間本当にありがとうございました。

主将になって得た自信

私の4年間は「未知の自分を知る」日々でした。高校まで甲子園を目指し、野球漬けでしたが、大学では視野を広げるべく、学業や他活動とも両立しやすい本学の軟式野球部を選択。1年時の全国大会出場を経

て主将に就任しました。4年次に掲げた目標を達成することは叶いませんでしたが、その思いは後輩に託します。こうした活動で培ったリーダーシップは就職活動でも評価され、第一志望の内定を頂くことができました。部活動引退

経営学科 伊藤 祥太 君の皆様

後もゼミ長として卒業論文を完遂。元来、リーダーというタイプではありませんでしたが、組織をまとめる力を磨けたことは大きな自信です。支えてくれた仲間、教職員

忘れられない友人たち

大学生活を振り返ると、その思い出に必ず友人たちの存在があります。切磋琢磨しあった同学科の仲間、さまざまな話をした他学科の友人、そして一緒にいろいろな場所へ出かけた他大学の友人。友人たちの思い出も、忘れられない友人たち

情報システム学科 中村 真依 君の皆様

また会ったときに胸を張って会えるように、恥じない自分であるために、これからも日々努力していきたいと思えます。4年間、誰よりも楽しく過ごせる時間を過ごすことができました。関



学長 式辞

新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

ることはないということもお伝えしました。

どうですか。今、卒業を前に後悔していますか。でも心配しなくても、この後悔というのは皆さんだけのものではなく、世界中の大学を卒業した人たちが「大学生のときにもっと勉強しておけばよかった」と思っているということもお話ししました。

4年前にはその後悔の理由について三つくらいお話ししたように思います。理由の一つめは簡単です。大学生である4年間はあまりに楽しいから。二つめの理由もある程度は簡単です。それは勉強という行為に終わりがいいからです。なので大学でちゃんと勉強した人たちは、みんな必ず後悔するんです。

す。

ではこの「とことん考える」ということは何を意味するのか。それはいつでもどこでも通用することを考えるということです。特定の時代の特定の社会だけで通用するのではなく、どの時代のどの場所でも通用する。2000年前のギリシャでも、あるいは10年後のシベリアでも通用することを大学では勉強しているはずで、極論すれば人類が滅んだあとの銀河系の端っこでも通用することを大学では議論してきたはずで、

したがってそこで期待されるのは特定の人たちだけが納得するような答えではありません。そんなものは本当の答えではありません。このことを難しくいえば普遍的ということ、語源的には大学とも近いユニバーサル universal という考えかたについても触れたと思います。

しかしこのユニバーサルに考えるというのは本当にむずかしいことです。世界は複雑で予測不可能なことがかりだから

でも情報システムでも、どんな対象であれ、そうした嘘を見抜く方法を4年間学んできたはずで、そして自分の意見をどこに誰に対しても説明できるような方法を身に付けてきたはずで、日本人だけが納得するような、あるいは自分の会社の同僚だけが納得するようなことを言っただけが喜ぶようなことは言っただけが喜ぶようなことは言っただけが喜ぶようなことではないのです。そしてその際限なくものを考えるということと現実との落差について一生考え続けるしかないのです。

こうして大学を卒業した人たちは自分の勉強をずっと不十分なものとして考え、「もっと勉強しておけばよかった」と思い続けることになるでしょう。したがってこの後悔という感覚の発生は悪いことでも恥ずべきことでもありません。それどころか大学を卒業した人間はこういう理屈っぽい人間でなければならぬのです。こうした生き方をしている、もしかししたら友達も減るかもしれない。家族にさえ嫌われるかもしれない。でもそれが大学を出た人間の生き方です。孤立して生きていくって、ください。

しかし、大学を出た孤立した人間同士はどこかで理解しあえるはずで、コリーグ collegue という言葉があります。同僚とか仲間という言葉ですが、これが変化してカレッジという単語もできています。そういう人間の集まりがカレッジの同窓会という組織です。卒業後もみんなで集まって、それぞれの後悔について話してみてください。まずは6月の「みずき会」でお会いしましょう。

本日はご卒業おめでとうございました。

皆さん、ご卒業、おめでとうございませう。4年間なんてあっという間だったと思います。4年前の2022年、まだまだコロナ禍がおさまらないなか、皆さんの入学式でも私が挨拶しましたが、そのときは私自身も学長に就任した直後でした。自分にとって最初の入学式の式辞ということもあり、自分としてはかなり気合を入れて準備した記憶があります。別にそのあとの年に手を抜いているということではありませんが。

その年、私が話したことを皆さんが覚えてらっしゃるかかわかりませんが、皆さんにお話ししたのは「大学生は卒業以降、「一生後悔する」ということでした。どういう後悔かという「もっと勉強しておけばよかった」という後悔です。そしてその後悔は大学を卒業したあとも、大きくなることはあっても消え

複雑かつ予測不可能な世界

「普遍的なるもの」考え続けよ

ややこしいのは三つめの理由です。それは「大学とは何をするとするか」「大学は何のためにあるのか」という問題と何かかわる、ちよつと面倒な問題です。これも4年前にお話ししたのは、大学は「ものごとを」とことん考える」ための組織だということです。そしてそういう組織を社会の中に置いておくことが良いことだと社会が認識しているということ

です。その証拠に、というか世間で使われているユニバーサルという言葉の意味にしても、下手したら、自分にとって都合のいい例を適当にどっか外の世界から拾ってきて、それをユニバーサルと言って相手に押し付けているだけなのかもしれません。そういう嘘にだまされてはいけません。

しかし皆さんは国際研究でも、経営学

理事長 祝辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 佐々木 辰弥

本日卒業式を迎えられた、319名の皆さん、卒業おめでとうございます。また、今日まで支えてこられたご父母の皆さん、教育、学生支援にご尽力いただいた教職員の皆さんにも併せて感謝とお祝いを申し上げます。

私は、本学の運営母体の学校法人新潟平成学院の佐々木と申します。一言お祝いを申し上げます。

今日は、本学の設立にあたり最も多く助成をいただいた、新潟市の中原市長さん、本法人の役員、父母会、同窓会、みずきの自治会はじめ、皆さんが就職でお世話になる企業様等、大勢の皆さんからお出でいただいております。本当にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、今の心境は如何ですか？ 四年間やり遂げた充実感でしょうか？ もう少し頑張れば良かったという心残りでしょうか？ それとも今後に対する不安でしょうか？ 様々な思いが走馬灯のように脳裏を駆け巡っていることでしょうか。

皆さんが入学した4年前の入学式では、全員がマスク姿で保護者の方の入場も1人に制限される等、コロナ感染症の後遺症が大きく影を落としていました。4年後の今の世界はどうでしょうか？ 情報が溢れ、考えも多様化し、フェイクニュースや誹謗中傷が拡散する混沌とした社会になっているように思われます。また、地域間紛争、人種差別や人権問題、自然災害や環境問題等は地球規模に広がり、加えて金融・経済関連では円安・物価高が日本経済を危うくしています。

皆さんがこれから向き合う仕事や生活も決して安全、安心できる環境ではないかもしれません。ただ、恨んでも、嘆いても解決はしません。皆さんは、変化の激しい社会を生き抜くための心構えや対応力をこれまでの学園生活、様々なセミナーやワークショップ等を通して思考力、判断力、表現力等を習得してきました。怯むことなく、学び得てきたことを

くさい人」だそうです。教えられたことを忠実に繰り返せる人よりも、新しい価値を生み出す人が必要とされる。その担い手を「面倒くさい人」と表現されたのです。植松社長は、北海道で社員20人規模の町工場を経営していますが、周囲からは到底無理だと否定された口ケットの開発に挑み続け、失敗を重ねた結果、人工衛星を丸ごと造り、打ち上げることができるようになりました。今では国内外の研究者が集まる宇宙開発の拠点となっているほどです。奇跡を起こせるのは過去の常識の延長線上で考えない、夢を語る「前向きな素人」だと語りました。

皆さんにとって卒業は一つの通過点であり、新たな目標に向けたスタートでもあります。新たな社会は皆さんがこれまで感じていたよりも厳しいものがあるかもしれません。残念ながら不公平であったり、不平等であったり、理不尽なことも多いでしょう。ただ、そんな複雑で、不確実な社会で

拡大する紛争・災害・格差… 学んだ対応力で乗り越えよう

思い出しながら一つひとつ乗り越えてください。

昨年の11月に企業の代表者を招いて恒例の「企業懇談会」を開催しました。講師に、池井戸潤の小説でテレビでもドラマ化された「下町口ケット」のモデルになった北海道の植松電機の社長さん、植松さんをお呼びしました。人口減少の時代に必要なる人材は「面倒

校で入学者が定員割れとなりました。本学は幸いにも1994（平成6）年の開学以来32年間1度も定員割れすることなく順調に運営がなされてまいりました。これもこれまでの卒業生の各本面での活躍が評価されていることに加え、教職員の熱心な教育・学生支援に対し地域の高いご支持、評価を頂いているものと感謝しているところです。

ただ、国の予測を上回るスピードで進む少子化と都市圏への一極集中等、地方小規模大学の運営は益々厳しさを増してまいりました。更に今、大学には社会の厳しい目が向けられていることもご承知の通りです。学生の個人情報漏洩、不法薬物の使用や研究費の不正使用等、コンプライアンスや危機管理の甘さによる不祥事が大きな問題となっています。都会のマンモス大学の出来事でわれわれ地方大学とは関係ないと傍観することなく、自らが襟をただし、危機管理を徹底し、学生をこれらの事件・事故から守ることが私たちの重要な使命です。

これまでの32年を振り返り、これからの30、40年後に向けて、皆さんが自慢できる母校であり続けることができるよう、教職員一体でこれからも、常に大学改革を進めてまいります。どうぞ皆さん、卒業後も母校新潟国際情報大学を訪ねてください。

皆さんの健康と大いなる飛躍をお祈りし、お祝いの言葉とします。





第29回までの卒業生は合計8,464人に

年度	国際文化 学科	経営学科	情報 システム 学科	卒業生数
令和7年度(第29回)	132人	107人	81人	320人

※9月卒業生含む



令和7年度卒業式

みずき野から世界へ

令和7年度の卒業式（第29回）が3月19日、新潟市中央区の新潟市民芸術文化会館（りゅうとぴあ）で行われました。いまだコロナ禍が収まらないなか入学し、勉学に励んできた319人（国際文化学科132人、経営学科106人、情報システム学科81人）が、晴れて学窓を巣立ち、社会への第一歩を踏み出しました。式典では卒業生1人ひとり名前を読み上げられて起立し、学科代表に学位記が授与されました。越智敏夫学長は式辞の中で「皆さんは卒業を前に後悔していますか。大学で勉強した人は、みんな必ず

319人 学窓巣立つ

後悔します。この後悔という感覚は悪いことでも恥ずべきことでもありません。卒業後もみんなで集まって、それぞれの後悔について話してみてください。6月の『みずき会』で会いましょう」と呼び掛けました。卒業生特別表彰（46人）、JABEE修了者（36人）への修了証書授与に続き、卒業生を代表して経営学科の長野健二郎さんが「全力で駆け抜けた4年間でした。社会人学生としてここまで歩んできたのも、教職員の皆様、仲間になつてくれた学生の皆さんのおかげ。本当にありがとうございました」と答辞を述べました。



忘れられない4年間

令和7年度 卒業生 特別表彰

国際文化学科 鍋田 茉綾
 経営学科 長野 健二郎
 情報システム学科 大森 なみ

学長賞（学業成績優秀者）